

第1回常総市立小中学校適正配置実施計画検討委員会会議 会議録 【要旨】

【日 時】 令和3年5月13日（木）午後2時05分～午後3時55分

【場 所】 常総市役所石下庁舎会議室

次 第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議事
  - (1) 会長・副会長の選出について
  - (2) 会議の公開について
  - (3) 会議資料及び会議要旨の公開と意見の受付について
5. 諮問
6. 説明  
市内小中学校の現状と適正配置の経緯について
7. その他
8. 閉会

出 席 者

委 員：草間 典夫委員，風野 芳之委員，馬渡 剛委員，篠崎 孝之委員，橋本 武夫委員  
中久喜 幸男委員，瀬高 欣一委員，大江 市郎委員，入山 伸一委員，  
荒木 裕一委員，大坪 博勝委員，片野 将之委員，伊藤 和芳委員，深谷 和美委員，  
古谷 和之委員，岡野 顕委員，江連 彩委員，佐藤 早苗委員，小林 麻耶委員，  
服部 仁一委員，石塚 哲也委員，宮川 敬子委員

市 長 部 局：神達 岳志市長

教 育 委 員 会：岡野 克巳教育長

事 務 局：小林 寛明教育部長，西村 聡学校教育課長，黒崎 久男教育政策室長  
金子 浩也教育政策係長，藤田 寛史教育政策主事

事務局 本日は、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。  
これより、常総市立小中学校適正配置実施計画検討委員会を開会いたします。  
なお、この検討委員会は、設置条例第6条で「委員過半数が出席しなければ会議を開くことが出来ない」とされております。本日の出席委員は25名中22名となっており、会議が成立しておりますことを報告いたします。  
それでは、議事に先立ちまして、神達市長よりご挨拶をお願いします。

市長 本日は皆さまお忙しい中、またコロナ禍の中お集まりいただき誠にありがとうございます。やっとここまでできたというのが実感でございます。何よりも各分野の代表の皆様本当に忌憚のないご意見を伺いたいと思います。子供たちの数の激減は大きな課題であります。地域の皆様と対話をし、実感しているところでございます。  
そして、1期目では、幼稚園5園を2園に、水海道の6つの公立の保育所の再編計画をやらせていただきました。各学校に給食を食べに行きながら子供たちと対話をさせていただいておりますが子供たちの数やクラスも減っており、私が小学生だった40年前と比べると半分以下であることを感じ、この学校生活、こういった充実した教育環境を作れるかといろいろな形で検討して参りました。  
行政として、人口減少を食い止める施策を考えることはもちろんのことです。アグリサイエンスバレー構想においても雇用の増大等で追い風が吹いている部分もありますが、これから急激に人口が増えるというのは日本全国としても、なかなか現実的ではありません。  
そういう中で、小学校は校舎の老朽化も進んでおります。喫緊では、大花羽小学校が、入学生が2人という現状もございます。また鬼怒中学校は水海道西中と比べると3倍、4倍の差があり、クラスが1クラスという状態にもなっております。  
こういう中でこれから5年先10年先を見据え、地域の拠点である小学校中学校の在り方も考えなくてはなりません。私はこの執行部に、ぜひ、小中学校の適正配置とあわせて、廃校になった学校の跡地利用を地域に納得のいく形で検討していただきたいです。今日は子供たちと直接接していらっしゃる皆さん、また議会からの代表の皆さん、また茨城大学からお越しいただいた、教育の専門家の皆さん、そういう中で忌憚のないご議論をいただいて提言をいただければありがたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

事務局 続きまして、岡野教育長よりご挨拶をお願いいたします。

教育長 常総市立小中学校適正配置実施計画検討委員会の開会にあたり、本日は、みなさまお忙しい中お集りいただき、誠にありがとうございます。  
平成20年から平成22年に渡り、学校の適正配置に関する審議会を開催し、答申をいただいたところです。その後、10年が経過し、児童の減少が顕著になってきました。児童生徒の良好な教育環境を確実に確保していくためには、適正配置に取り組まなければならない状況となっております。とはいえ、適正配置に関しましては、市や

教育委員会で決定するというのではなく、今の市長の挨拶にもあるように、地域の声をしっかりと受け止め、そして、10年後20年後の子供たちに、あるいは地域に夢と希望を与える常総市の発展に向けて一歩踏み出し進んでいくべきかと思えます。これからの新しい時代を担う「人づくり」のため、委員のみなさまの忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

事務局 続きまして、本日は本検討委員会設置後はじめての会議となりますので、自己紹介をお願いしたいと思います。

それでは、恐れ入りますが、着席順で草間委員から順番に、ご起立のうえ、ご紹介願います。

(順番に自己紹介)

事務局 ありがとうございます。なお、委員の皆様には、お手元に委嘱状を配布させていただいておりますのでご確認くださいませようお願いします。

続きまして、事務局の自己紹介をさせていただきます。

(事務局自己紹介)

事務局 続きまして、資料の確認をさせていただきます。

順番に、

「次第」、「検討委員会名簿」、「諮問書」、

「資料1」、「資料2」、「資料3」、「資料4」、

「資料5」、でございます。

以上8点となりますが、資料の不足はございませんでしょうか。

事務局 それでは、次第の4：議事に入っていただくわけですが、本日の会議は第1回目の会議となりますので、会長・副会長の選任がなされておられません。検討委員会設置条例では、第5条におきまして、会長・副会長を委員の互選により選出することとなっておりますので、会長・副会長の選任をいただきたいと存じます。

会長・副会長につきましては、いかがいたしましょうか。

(事務局案の声)

事務局 事務局案として、会長を茨城大学の馬渡剛様、副会長を自治区長連絡協議会会長の篠崎孝之様ということでご提案させていただきたいと存じます。

(異議なし)

事務局 ご異議が無いようでございます。会長として茨城大学の馬渡 剛様、副会長として自治区長連絡協議会会長の篠崎 孝之様が互選されました。  
なお、会長が決まりましたので、条例第6条に基づきまして、会長となりました馬渡剛様に議事進行をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

(会長あいさつ)

会長 それでは、これより議長を務めさせていただきます。円滑な議事運営に皆様のご協力をお願いいたします。  
では、次第に従いまして議事を進めます。  
議事の第2として、「会議の公開について」ご協議いただきたいと思います。  
事務局から、説明をお願いします。

事務局 会議の公開についてご説明いたします。本検討委員会は、教育委員会の附属機関、有識者・各分野の代表者の皆さまから、市の行政に対するご意見を伺う審議会等でございます。市としましてはこれらの会議については、行政の透明性、また公平性を高めるため、原則として公開する方針となっております。つきましては、本会議においても、原則公開とさせていただければと考えております。また、やむを得ない事情として、コロナウイルス感染症拡大防止動向を踏まえまして、今後の状況によっては会議を非公開とさせていただくことも考えております。

会長 ただいま事務局から説明がございました。ご質問・ご意見等ございますでしょうか。  
(特になし)  
ありがとうございました。それでは、会議については【公開】ということよろしいですか。

(異議なしの声)

会長 それでは、会議については【公開】といたします。  
次に、議事の第3として、「会議資料及び会議要旨の公開と意見の受付について」、ご協議いただきたいと思います。事務局から、説明をお願いします。

事務局 会議資料については会議終了後適時に、また会議要旨については、次回会議で前回分をご確認いただいてから、それぞれ市 HP に掲載し、また、市民からのご意見等については記名の上随時お寄せいただくという案をご提案させていただきます。

会長 ただいま事務局から説明がございました。ご質問・ご意見等ございますでしょうか。  
(特になし)

会長 それでは、事務局案を採用するというところでよろしいですか。

(異議なしの声)

会長 それでは、次に、次第の5、諮問に移ります。  
事務局の説明を求めます。

事務局 ここで、教育長より、本検討委員会にあてて諮問書を提出させていただきます。諮問につきましても、教育長が諮問書を読み上げる形を取らせていただきます。

教育長 (諮問書読み上げ)

会長 次に、次第の6「市立小中学校の現状と適正配置の経緯について」、事務局から説明願います。

事務局 (本日の会議趣旨と資料概要を説明)

事務局 (資料の詳細を説明)

会長 ありがとうございました。  
どこの自治体もそうでありますが、人口減少に伴い小中学校児童、生徒数の減少は避けられない課題であります。常総市も例外ではございません。施設の老朽化の話もありましたが、その点についても考えていただきたいです。  
ここから意見交換の場とさせていただきます  
本日は、保護者の皆様もいらしていますので是非、その立場からのご意見をいただきたいです。何かありますでしょうか。

委員 A 7ページの人口の推移と将来の話で2020年度から急劇な人口減少になっておりますが、これに対してより詳細な根拠はあるのでしょうか。

会長 この根拠については、合計特殊出生率や国立社会保障人口問題研究所の推計をもとに常総市の現状に当てはめております。

委員 A 常総市の全体ではこのようになるのだと思います。五箇三妻地区においては、アグリサイエンスバレー構想等により新たな雇用が生まれ、定住化人口の改善等が考えられます。また他地域に関してもこのような人口減少にブレーキがかかる地域があるのではないかと考えますが、このような想定がこのデータに反映されているのでしょうか。

事務局 資料9ページをご覧ください。こちらは常総市の人口ビジョンであります。社人研のデータをもとに推計値を見ていきますと、2060年ごろには36000人ほどの人口推計になるのでありますが、アグリサイエンスバレー構想等様々な施策を踏まえ、常総市全体として、45000人程度まで人口の維持をしていきたいと目標を立て考えているところでもあります。

会長 今の説明からは、アグリサイエンスバレー等の反映はされていないのではと思われま  
す。今後、アグリサイエンスバレーの施策を考慮していくと、常総市の目標に近くな  
るのではないかと考えます。いずれにしても、人口減少は確実です。お答えとしては、  
明確に入っているかどうかはお答えできませんが、目標に関しては当然そのような施  
策の反映もしているところだと考えます。

委員 A おおよその理解といたします。

委員 B 資料を確認してみると、ざっくりではありますが、人口が10年前20年前と違うの  
に学校は19校のままというのはいちばん多いと感じます。  
なお、人口については半分ほどに減っているのでも今後、急に増えることはないだろ  
うと考えます。このような状況からも、なるべく早く適正配置したほうが子供たちの共  
同生活という観点からもいいと思います。

会長 子供たちのことを考えるということはとても重要であります。  
また、人口についていえば、2100年には明治時代のレベルまで減少すると言われて  
います。2000年ごろをピークに減少しているというのが今の日本の現状です。小中  
学校は昭和の時代の人口増加を見込んで建設されたものがほとんどであるため、老朽  
化もしています。

委員 C 資料はわかりやすいです。  
人口ビジョンの背景から今後の適正配置のスケジュール感はどのようになっている  
のでしょうか。

事務局 10年から15年先を見込んで全体19校を対象とした全体的な適正配置のイメージを  
今年度中に固めていきたいと思っております。また、検討してしていく中で、地域的  
な課題については、個別に検討をお願いしたいと思います。全体像を踏まえ実施計画  
については3年ほどかかるのではと考えております。

会長 この間、社会的な変化があった場合には、見直しも検討していくことになります。  
また、この検討委員会のまとめた意見を今後市長に答申します。

委員 D 資料 1 パワポ 17 についてですが、常総市の中学校は選択制になっており、学区外に通っている子も多々おります。これについては、鬼怒中学校が大きな影響を受けています。100 人程度の推移を想定しているとありますがこれは、学区内生徒が鬼怒中に来た場合の話であります。保護者の立場からすれば他の学校に行ったほうが良いという意見も多くあります。部活の関係等で他の中学校に行く生徒もおります。子供から見ればより早く適正配置を進めていただきたい。

会長 貴重な意見であります。

事務局 先ほどの説明に不足がありましたので追加での説明をさせていただきます。全体 19 校の適正配置イメージを考えていきたいとはありますが、今のような個別の課題、喫緊の課題については同時進行で検討を進めていきたいと考えております。全体 19 校のイメージから個別の課題の順序ではなく、同時進行というイメージで検討委員会の中で議論していきたいということでございます。

会長 そのなかでもスピード感を意識したほうが良いということだと思います。これは重く受けとめたいと思います。

委員 E 今までの経過について、平成 20 年に審議会を立ち上げ、平成 22 年に答申を受けた後、その後約 10 年間適正配置が実現していない状況であります。これがなぜ実現しなかったのかをこの場で共有したい。そのほうが良いと思います。また、その実現しなかった課題があればお伺いしたいと思います。

事務局 当時の答申については、地域の方の積極的な意見や複式学級が続くようなことがあれば統合を考えるという方針でありました。当時は一時、複式学級もありましたが、継続することはありませんでした。しかし、近年では、複式学級が継続していること、それに伴い、地域の方からの声が上がってきた状況でございます。

委員 F 参考までにお聞きください。私は、10 年前に適正配置審議会の委員でありました。県の指導としては 1 学級組み換えをできる状態を維持すべきであるとのことでありました。当時、五箇小、大花羽小は 1 学級 10 数名という状態でした。そのような中で、五箇小、三妻小、大花羽小、菅原小について統廃合を検討しておりました。しかし、児童数が多くなるだけがすべてではない、デメリットもあるがメリットもあるという考えから、各学級が 10 人を割るような状態になれば統廃合に向かうという答申であったと記憶しています。今回、この時が来たのだと感じております。

会長 委員の意見について補足します。  
資料の 3 であります。黄色の線は複式学級を示すものであります。  
この資料についての黄色の部分について注目していただきたいと思っております。

- 委員 C 今日は大花羽小の PTA 関係者もいるのでお聞きしたいです。保護者の意見として、大花羽小は一斉に適正配置により無くすほうがいいのか、歴史等を考慮し残すべきと考えるのかどのような意見があるのでしょうか。
- 委員 G 集計はしていないので、はっきりとはしていませんが、このままでは、大花羽小は厳しいのかなという感じがあります。実際に豊岡小学校に行く児童もおり、羽生地区からでは行ける距離でもあります。資料の 5 では、小学 1 年生の見込み人数が 9 人となっているが実際には 2 人である。このことから、他に流れているのが現実であります。
- 委員 C 今の意見からも、大花羽小はあまりにも少ないです。保護者としては各イベントもできない状態で、一例として運動会は 1 学年 1 回で終わってしまいます。保護者の協力で何とか時間を持たせている状況です。適正配置するのであれば急ぎ実施してほしいです。
- 会長 学校の伝統を考えるのも一つでありますが子ども们的ことも考えるということが重要であります。委員の意見は PTA としての貴重な意見であります。
- 事務局 今後、市内 19 校の保護者等を対象に学級数の人数が少ないところなどの趣旨を踏まえたアンケートを実施していく予定でございます。
- 会長 今後、アンケートは実施していくということで進めます。
- 委員 H 大変な問題で時が来たと感じております。総論はここにいる皆がわかっているのだと感じます。しかし、各論になると我が校は残したいという意見が出てくるのが難しいところでございます。常総市全体として、この現状を踏まえて、考えて審議していただきたいと思っております。
- 委員 A 当時の答申から 10 数年という余裕があったわけでありましたが、当時、ある議員から運動会にて、来年で五箇小が無くなるという話がありました。これについては PTA から大ブーイングが起こり、その後地元では統廃合の話がタブーのようになってしまいました。こういった状況がある中、委員会としては、何らかの形で地元で統廃合の話を下したのかお聞きしたいです。
- 会長 非常に難しい問題ではありますが、今の発言については、失われた 10 年ではないかというお叱りの意見とも受け止めて、ぜひ我々は、先を見据えて未来を変えていければと思います。詳細な経緯についてはわかりかねますが、決して無視していたわけではなく、把握はしていたが決定までには至らなかったということだと思います。



仮に詳細な説明が必要であれば次回の会議で説明していければと考えますがどうでしょうか。

委員 A 失われた 10 年については、次の会議をもって、何かしらの前進策が生まれればそれ以降深く追求することはありませんので、よろしく願います。

委員 I 10 年先を見越して、またその先を見越してという話からすれば、大花羽小、菅原小だけの問題ではないと思います。より先を見据えれば、また数が少なくなることが予想されますので、その先も見据えて検討していくべきだと考えます。

委員 D 先を見据えてとありましたが、適正配置の問題は常総市だけではないはずで、他市の状況はどう進めているのか、何年かけてどのように進めているのかという事例はあるのでしょうか。また教育委員会はどう考えているのでしょうか。

会長 全国的にはすべての自治体に関係しております。自治体によっては具体案もございません。常総市が他に比べて遅いというわけではございません。今日のこの場で驚いたことといえばここにいる皆さんが変化に対して拒否しないという点については驚きを感じました。他市の事例については次回以降に示します。

委員 J 使用しなくなった学校の在り方についても全国の事例はあるのでしょうか。

会長 学校の利活用についても次の会議で示します。  
一例ではありますが、茨城県北ではドローンを使ったドローンの開発と操作方法を学ぶ学校とした事例もあります。大学の工学部がそこで研究しています。

委員 A 校長先生としてもご意見があればお伺いしたいです。

会長 ご意見があれば願います。

委員 K 総じて、子供たちは落ち着いている状況であります。大きい学校と比べるということではありませんが、小さいところはよく目が届くという点もあります。一方で部活動については心配な点もございます。部活の数は減っていないが部員が減っているのでチームが組めない状況があります。大きい学校、小さい学校どちらがいいとは言いきれないのですが、どちらにもいい面があると考えます。

委員 L 学校の現状からすれば、コロナ禍でリモート学習も実施される中で、学習はある程度は個人でもできるかもしれません。しかし学校の存在意義としては、コミュニケーションの場としても重要であると考えております。そういった意味からも、1 クラスでずっと進級していくというのは、コミュニケーションによる部分で物足りなさが出て

くる懸念もございます。

会長 コロナ禍でのオンラインで教育はしている状況で、テクノロジーの力で何とか学習に資するような面がありますが、他の学校や地域と繋がるということも答申の中に織り込んでいきたいと思えます。

委員 M 五箇小の保護者の意見ではありますが、人数が少なくなると大きい学校に比べ、たくましさや欠ける部分があると感じます。人数が少ない分、学習がなかなか大変であるのかなと感じる部分もあります。保護者としては統廃合を進めていったほうが良いと思えます。そう思う反面、地域の各団体が子供のために活動している面もあります。学校がキーになっているので保護者としては統合したいという点と地元としてのキーの部分に配慮をする他方向を考えてほしいです。

委員 N 今までのご意見を拝聴し、教育の効果と地域の声を鑑みると決して今まで足踏みしていたわけではないと考えます。小さな学校、少人数でも良さを生かすことができると考えておりました。今が変える時であると本日改めて感じたところです。子供にとって一番いいのは何なのかを考えていきたいと考えております。

会長 ありがとうございます。時間になりましたので以上にしたいと思います。この場で意見が無くとも他にあれば事務局に言っていただければと思えます。次回以降も皆さんで議論してまいりたいと思えますのでよろしくお願いいたします。それでは、事務局にお返しします。

事務局 委員の皆さま、慎重なご審議ありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度第1回常総市立小中学校適正配置実施計画検討委員会を閉会いたします。なお、次回、第2回検討委員会会議は5月31日(月)の開催を予定しております。改めて、ご通知をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日は、会議の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

(終了午後3時55分)